

新社会学研究

2018年
第3号

発売中!

特集 ファン文化の社会学
公募特集 今、地域を考える

着々と存在感を増す社会学学術誌が今年も新たな切り口に挑みます。特集「ファン文化の社会学」では、Kポップの製作サイドとファン、男性アイドルグループの「同担拒否」研究史、さらに2・5次元ミュージカルのファン研究の3論考を所収。公募特集は「今、地域を考える」がテーマ。強制撤去させられるインフォーマル居住者の実践。「社会に包摂される芸術」モデルへ移行するアートプロジェクト。炭鉱閉山後の地域とその後始末に関わった人々の生の変動。難病と共に生きる人にとっての資源としての地域。それぞれの「地域の生」を視る査読論文4篇に加え、映画・看取り・査読・ファッション・ビデオ調査等の連載など、新たな社会学を希求する実践が満載です。

目次

	巻頭エッセイ 社会学的に考えることの実践としての『新社会学研究』 ——社会学的思考を促す仕組みとしての公募特集とその査読	樫田美雄
特 集	ファン文化の社会学 特集 ファン文化の社会学によせて 送り手とファンの相互作用——K-POPの女性ファン文化 「同担拒否」再考——アイドルとファンの関係、ファン・コミュニティ 2・5次元ミュージカルのファン	小川博司 吉光正絵 辻 泉 田中東子
	読者の声『現代社会学』等と「新社会学研究」 ——新雑誌の意義の確認と将来展望	宮本孝二
連 載	くまじろーのシネマ社会学③ 「沖縄決戦」からみえてくるもの 極私的 sociology② グループホームで父を看取る (2) ——介護スタッフの実践から見えてくる〈本人の意思〉 論文投稿と査読のホントのところ③ 学会をブランディングするための装置としての論文査読システム ネコタロウに聞け! ——社会学者スーパースター列伝④ テンニエス	好井裕明 三浦耕吉郎 査読ア太郎 栗田宣義
特 集 公 募	今、地域を考える 公募特集によせて うわさと「疑いの世界」 ——マニラにおけるインフォーマル居住者の強制撤去と展開過程 社会と関わる芸術にとっての地域——対立から包摂へ 炭鉱の閉山を巡って交錯するリアリティ ——「後始末」に携わった人々の半生から 住むことも住まないことも資源にする ——未確定希少難病患者の移住に関する一事例研究	好井裕明 石岡文昇 高橋かおり 坂田勝彦 上野 彩
連 載	ネコタロウに聞け! ——社会学者スーパースター列伝⑤ リブセット ビデオで調査をする方法③ ビデオで調査をして当事者研究的 sociology 調査を行おう ファッション&パッション③ ファッション系統とその性格 同人書評 ネコタロウに聞け! ——異書・外伝篇③ AIの叛乱ならぬ氾濫	栗田宣義 樫田美雄 栗田宣義 栗田宣義
	読者の声 (気が早い) アーカイブ化への期待 読者の声 (生きる力) を支える社会学	井口高志 松浦智恵美

ISBN978-4-7885-1592-5 C3036

A5判並製・212頁 定価: 本体1,900円+税

『新社会学研究』はISBNを有し、図書として購入できます。ぜひ、大学、研究機関の図書館や共同図書室にてお気軽にお買い求めいただければ幸いです。

小川博司・樫田美雄・栗田宣義・好井裕明・三浦耕吉郎 編
新曜社

特集 ファン文化の社会学によせて

小川博司

……日本における本格的なファン研究の成果としては、二〇〇七年に出た『それぞれのファン研究— I am a fan 』『応援・サポート・人助けの風俗』がある。前者は、コミックマーケット、「二次創作」、ゲーム、総合格闘技、宝塚、ジャニーズ系アイドルと、さまざまな領域におけるファン文化のあり方を論じている。後者は応援・サポート・人助けという括りでファン文化の隣接領域を扱い、ファン文化研究への別な角度からの視点を提示している。その後、個別のファン文化に絞った研究が続々と発表されてきている。二〇〇七年から十余年が経過し、「それぞれのファン」文化の最前線を確認するとともに、「それぞれ」を越えたファン文化研究へのステップを踏み出す時期が来ているように思われる。……

公募特集によせて

好井裕明

……開発のためにインフォーマル居住者を強制撤去させ郊外に移住させ続けるフィリピンのマニラ。そこには生活世界の激変に苦しみ、なんとかしてその変動に向き合い生き抜こうとする人々がいる。著者は彼らの暮らしの場に降り立ち、「人々の実践」を見つめ、そこから「強制撤去」という現実を読み解き、都市開発をめぐる社会学調査研究の新たなアプローチを構想する(石岡丈昇論文)。近年、日本各地で地域に関わるアートプロジェクトが多く行われている。著者はこの現実を見つめ、芸術と社会との関係を捉えなおそうとし、従来の議論を精査しつつ、アートプロジェクトの想定するモデルが「社会と対立する芸術」から「社会のなかに芸術が包摂される」という包摂図式へ移行していることを検討する。芸術と社会は地域という結節点でどのようにせめぎあうのだろうか(高橋かおり論文)。一九六〇～七〇年代、石炭から石油へというエネルギー革命の進展に伴い、日本各地は産業や人々の生活をめぐる激変を経験した。具体的には炭鉱の閉山であり、地域に残る人去る人の中で多様なリアリティが交錯した。著者はある炭鉱閉山の「後始末」に関わった人々の語りを丁寧に聞き取ることから、地域の変動とそこで生きた人々の生の変動のありようを探ろうとする。(坂田勝彦論文)。「未確定希少難病患者」という言葉にまず驚く。著者は当事者からどのように病いと向き合い、これまで生きて、今どう考え、これからどう生きようとするのか、「病いの語り」を丁寧に聞き取っている。病いを生きざるを得ない人にとって地域はどのように「意味」をもたらすのか。生きるうえでの資源として地域をとらえなおす(上野彩論文)。……

論文を公募します！

『新社会学研究』第四号特集の論文公募

【テーマ：メディアとコミュニケーションの社会学】

新曜社から2019年秋に刊行される『新社会学研究』第4号にて、特集「メディアとコミュニケーションの社会学」に関する研究論文の投稿を募ります。

近年のメディアとコミュニケーションをめぐる変容について、大きく三つの特徴をあげることができます。第一に、コミュニケーション過程への人々の「参加」の度合いが劇的に大きくなっています。第二に、メディア体験と直接的な体験との関係がより複雑になってきています。第三に、インターネットが普及してソーシャルメディアの利用が浸透し、メディアとコミュニケーションをめぐって新たな局面が展開されるようになりました。

以上のようなメディアやコミュニケーションの変容に関する具体的な事象についての研究を歓迎します。加えて、メディア文化、メディアやコミュニケーションをめぐる歴史社会的な研究、さらに、新たな地平において理論的枠組を再検討する議論も歓迎します。

【公募エントリー方法】 論文タイトル、概要、独創的な主張点などを、2000～2500字でまとめ、氏名、所属、連絡用アドレスをそえたエントリーシート(書式自由、PDFファイル)を編集同人事務局までメール添付で送ってください。メールのタイトルに、必ず、**【公募エントリー】**と記してください。

【公募エントリー締切】 2018年11月11日

【査読について】

- 本特集では、論文主題や主張の独創性を中心に編集同人によって、エントリーシートを検討します。エントリーシートの内容によっては編集同人以外の社会学研究者に参考意見を求めることもあります。その結果、雑誌の論文掲載スペースから考え、3～4名に論文執筆を依頼する予定です。
- 一次審査通過者には2018年11月28日に論文執筆を依頼。2019年1月28日が論文の締切となります。
- その後、提出された論文を編集同人により査読し、適宜修正を依頼し、論文完成をめざします。
- 論文の分量は、20000字で(注・文献表示・図表も含まれます)。論文の執筆スタイルは、基本的に『社会学評論スタイルガイド(第二版)』に準拠してください。

【エントリーシート送付先】 『新社会学研究』編集同人事務局(甲南大学文学部 栗田宣義研究室内)
メールアドレス(nekotaro@konan-u.ac.jp)

【編集同人】 檜田美雄 栗田宣義 好井裕明 三浦耕吉郎 小川博司
同人ウェブサイト <http://www.bigcosmic.com/board/s/board.cgi?id=JS2016>